湘北数理・データサイエンス・AI教育プログラム
令和6(2024)年度 自己点検・評価結果

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和6年度終了時点で、総合ビジネス・情報学科および生活プロデュース学科の学生が受講できる「情報リテラシー(データサイエンス入門)」が終了している。単位修得率は87.9%(203/231名)であった。このうち、開講期中または期後に休学もしくは退学した学生を除くと単位修得率は98.5%(203/206名)となる。
学修成果	担当教員はLMSを通じて学生の進捗を把握している。「情報リテラシー(データサイエンス入門)」は、全15回(動画・課題提出・小テストを含む全94レクチャー)のオンデマンド科目であり、LMSへのログイン状況、動画閲覧状況、課題提出状況を教員が常にモニタリングし、進捗の芳しくない学生にはメール等でリマインドした。学修成果を確認する小テストを25件設け、テストをクリアしない限り先のレクチャーに進めない仕様としているため、全レクチャーに取り組んだ学生は一定の学修成果を有していると考えられる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本教育プログラム受講者全員に対して授業改善アンケート調査を実施している。また、オンデマンド科目においては、受講スタイルに関するアンケート調査を実施している。令和6年度の「情報リテラシー(データサイエンス入門)」においては、授業改善アンケートの設問「この授業の目的とする知識や技能、考え方が身についたか」「この授業を通じて自分が以前より成長できたか」において、4段階評価で肯定的な意見が、それぞれ92%を超える結果となった。学生の自己評価として、各自が内容を理解できたと考えられる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	令和6年度の「情報リテラシー(データサイエンス入門)」の授業改善アンケートの設問「授業の内容は興味深いものであったか」において、88.4%の肯定的な意見が得られた。後輩等への推奨度を直接調査したものではないが、多くの学生に取って履修する価値のある内容として受け入れられたと考えられる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムを構成する「情報リテラシー(データサイエンス入門)」および「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」は、各学科の卒業要件に含まれる必修科目として開講している。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムを修了した学生が卒業するのが令和7年度末が初めてとなり、進路についても今後判明する状況である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学卒業生がターゲットとする就職先の内、事務職やSEはもとより、人と人とのコミュニケーションが重要視される接客業や保育の現場においても、本プログラムの学修内容が重要視されている。過去の来店データに基づく顧客との対面コミュニケーションの円滑化や、午睡センサーを利用した園児の安全確保など、質の高いサービス提供の事例が増えつつある。生成AI関連技術の急速な発展も注視しつつ、学生にとって有益な情報を提供できるようプログラムの内容を継続点検する。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本教育プログラムは、各学科必修科目のみで構成されており、もともと興味を持っていない学生も一定数含まれる。そのため、産業界からの視点だけでなく、学生目線の身近な事例なども散りばめて、数理・データサイエンス・AIに関する知識やスキルを自然と理解できるような授業を展開している。結果として上述した複数の設問において肯定的な意見が得られたと考えられる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	オンデマンド科目においては、授業設計段階から学外のインタラクションデザイナーに協力を仰ぎ動画制作や課題設定を構成した。オンデマンド科目独自のアンケート調査から、授業スタイルに関して79.5%の肯定的な意見が得られた。授業改善アンケート等で得られる情報や、本教育プログラム以外の授業内容・スタイルも参考にし、分かりやすさの観点から授業およびプログラムの見直しを継続する。